

デーリー東北  
2019年(令和元年)12月13日(金曜日)(16)

## 児童・生徒ら ジオパーク学習・活動発表

**大間** 第3回下北ジオパーク学習・活動発表会(下北ジオパーク推進協議会主催)が7日、大間町の北通り総合文化センター「ウイング」で開かれ、参加者が子どもたちの学習成果発表などを通して、地域の魅力を再認識した。(橋端智和)

# 下北の魅力再確認

下北ジオパークが掲げる目的の一つである子どもたちの郷土愛醸成が狙い。むつ市立大畑小、青森県立大湊高、むつ工業高、大間町立奥戸中の児童・生徒が学習成果を披露。県立むつ高等技術専門学校(下北の魅力)と題して発表。5年生は薬研ジオサイト、6年生は川内、脇野沢・鯛島両ジオサイトを見学して学んだことをそれぞれ取り上げ、「下

## 環境保全の大切さ訴え

北の魅力は自然がたくさんあって、生き物が身近に存在すること。環境を汚さないようにし、生き物や植物を保護していかなくてはならない」と訴えた。

むつ工業高生は、むつ市の水源地公園をゲーム感覚で体験学習できる「ジオ・ウォークラリーコース図」を作成したことを報告。奥戸中生は地元海岸の地形や流れ着いた漂着物から、人々の営みや世界とのつながりなどについて発表した。

この他、会場には、下北地域の各校による特色ある学びや、活動成果をまとめた壁新聞が張り出され、参加者が興味深げに観賞していた。



「守ろう！伝えよう！下北の魅力」と題し、学習成果を発表する大畑小児童